

育てる教育相談の視点を取り入れた学級づくり

～伝え合い、認め合う人間関係づくりを目指して～

学校教育相談研究会議

杉山 達郎¹

横山 容子²

生亀 砂保里³

石栗 美紀⁴

要 約

学校生活の基盤となるのが学級であり、大半は授業の時間である。この両者が子どもたちにとって魅力的なものであれば、学校生活が充実したものになると考えた。そこで、本研究では、育てる教育相談の視点から、子どもと教師と一緒に学級力を育成していく活動を通して、伝え合い、認め合う人間関係形成能力や、学習に協力して取り組む力が育まれていくことを検証する。子どもたちが診断した学級の状況をレーダーチャートで可視化し、話し合い活動によって、学級の目標を設定する。その目標を達成させるための取組を計画し、それを実施してその成果を評価し、さらなる改善へとつなげていく。つまり、R-PDCAサイクルのプロセスに沿って、よりよい学級を目指し、学級全員の子どもたち主体で計画的に活動を進めていく。これらの活動を継続して行っていくことにより、学級集団の凝集性が高まり、ともに学び合う集団が育まれていくと考えられる。

キーワード：学級力、可視化、R-PDCAサイクル、協同的な学び

目 次

I 主題設定の理由	2	(2) 研究の経過	7
1 はじめに	2	6 研究の実践	8
2 川崎市の児童生徒の状況	2	(1) 学級力の育成	8
II 研究の内容	3	ア 結果	11
1 研究の目的	3	イ 考察	12
(1) 教育相談の分野	3	(2) 協同的な学びの授業の実践	13
(2) 育てる教育相談の視点と育てたい姿	3	① 結果	14
(3) 学級づくりと授業づくり	4	② 考察	15
2 学級力の育成	4	III 研究のまとめ	15
(1) 望ましい学級が備えている5つの力	4	1 研究を通して見えてきたもの	15
(2) 学級力育成の流れ	5	2 今後の課題	17
3 協同的な学びを基盤とした授業	5		
4 研究構想図	6	参考文献	18
5 研究の手順	6	指導助言者	18
(1) 調査対象学級のアセスメント	6		

¹ 川崎市立野川中学校（長期研究員）

² 川崎市立橋中学校（研究員）

³ 川崎市立末長小学校（研究員）

⁴ 川崎市立小田小学校（研究員）

I 主題設定の理由

1 はじめに

様々なところで、子どもたちのコミュニケーション能力の低下が言われている。その原因として少子化やテレビゲーム、携帯電話への依存傾向によって、人間同士の温かなコミュニケーションが減少していることが考えられる。自分の思いを伝えられなかったり、相手の個性を認めることができずにトラブルになり、それが、いじめや不登校といった問題に発展したりすることも多い。学校生活の基盤は学級である。また、それは学習集団でもあり、学級の状態が授業そのものに反映されてくるとも考えられる。教師は、その学級をよりよいものにしようと日々努力をしている。しかし、学級担任だけでは抱えきれないほどのさまざまな課題や、解決困難な問題が学級で発生していることも少なくないのが現状である。子どもたちの学校生活を支える土台としての学級づくりの重要性は、教師であれば誰もが感じているところである。『小学校学習指導要領解説特別活動編第1章総説、学級活動の改善⁵⁾』では「よりよい人間関係を築き、楽しい生活をつくるなど、自分たちの学級や学校の生活の充実と向上のために主体的に参画し、進んで話し合い、協力して実現しようとする自主的・実践的な態度の育成」を重視している。そこで、よりよい人間関係を築き、児童生徒が学級の生活の充実と向上のために主体的に参画していくには、どのような視点から学級づくりを行っていけばよいのだろうかということを考え、本主題を設定した。

2 川崎市の児童生徒の現状

川崎市総合教育センターがまとめた『平成23年度川崎市小・中学校教育基本調査報告書⁶⁾』を参考に、川崎市の小学4年生、6年生、中学3年生の学校における人間関係に関すること、学習に関することを分析した(図1)。学校における人間関係では、周囲への貢献意識として、「まわりの人に役に立ったと思うときがありますか」の質問に対して、「あまりない」または「まったくない」と回答した割合が各学年とも25%以上である。中学3年生においては40%を超えている。このことから、子どもたちの自己肯定感を高められるように、教科や学級活動等の授業において、人と人とのかかわりの中で、役に立っているという気持ちをもてるような言葉かけや人間関係づくりをさらに進めていく必要があると考える。

また、学習方法の意識として「授業の中で友だちと話し合ったり、発表し合ったりする学習は好きですか」の質問に対しては、学年が進むにつれてあまり好きではない傾向が伺える。子どもたちが進んで

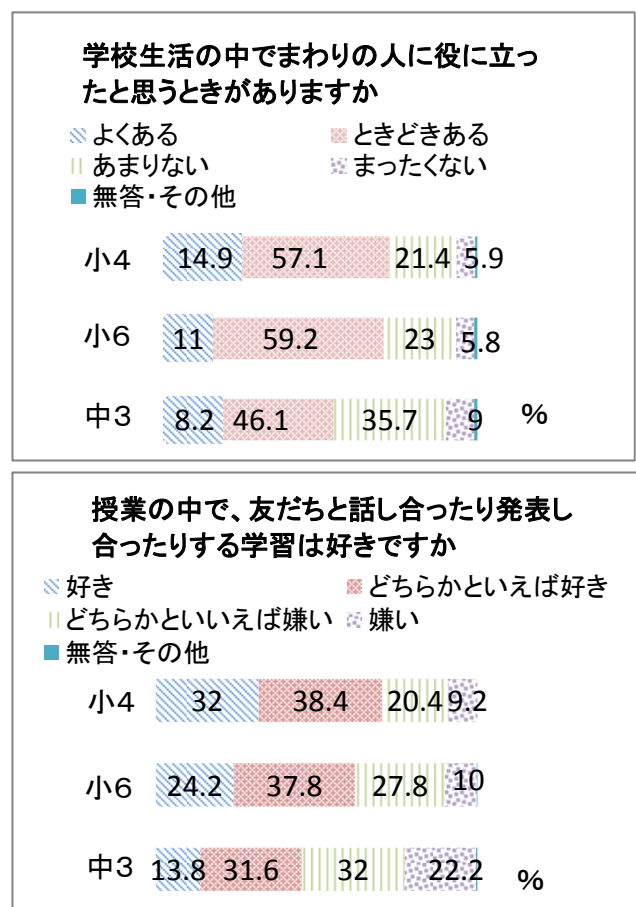


図1 川崎市小・中学校教育基本調査平成23年度

⁵⁾ 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省 2008年6月 p.5

⁶⁾ 「川崎市小・中学校教育基本調査報告書」川崎市総合教育センター 2012年3月 p.21・25

学習に取り組めるように、自分の考えや意見を安心して自信をもって話したり、お互いの考えを交流して自分の考えを深めたりできる授業づくりをしていく必要があると考える。

II 研究の内容

1 研究の目的

(1) 教育相談の分野

『月刊学校教育相談⁷』によると、教育相談の分野は、次のように分けられる。

①問題解決的・治療的教育相談

いじめや不登校、非行など現実生活に適応できない状況を解決し、場合によってはカウンセリングなどの治療的対応を行うものである。

②予防的教育相談

大きな不適應には至っていないが、遅刻・欠席や体調不良などがみられる不安定な状況下の児童・生徒に行われる。担任や養護教諭を中心として、この段階で早期発見・早期対応をすることが望ましい。

③発達促進的・開発的教育相談（育てる教育相談）

不適應感もなく元気に学校に通っている多くの児童・生徒に対して、社会性、情緒の豊かさ、学習能力や思考力などの獲得のための心の成長を支え、さらに向上させていくものである。担任を中心に教科や学級活動等の授業の中で児童・生徒理解を進め、学級のよい雰囲気をつくり、心のエネルギーを充足することによって、健全な成長を促すことである。

本研究では、③の発達促進的・開発的教育相談（育てる教育相談）の視点から研究を進め、子どもと教師が一緒によりよい学級をつくっていく活動を通して、伝え合い、認め合う人間関係形成能力や、学習に協力して取り組む力が育まれていくことを目的とした。

(2) 育てる教育相談（発達促進的・開発的）の視点と育てたい児童生徒の姿

『生徒指導提要⁸』では、育てる教育相談の考え方のポイントとして、①児童生徒理解へのかかわり②教師の指導性③学級雰囲気づくり④帰属意識の維持⑤心のエネルギーの充足⑥学習意欲の育成等を挙げている。これらを整理して考えると、教師が児童生徒理解を前提としたリーダーシップとカウンセリング的配慮の両面を自在に使い分け、ルールとふれあいのある学級の雰囲気をつくる。そして、子どもたちが学級の一員として同じ目標に向

表1 育てる教育相談の視点と育てたい児童生徒の姿

かって努力し、自分の存在を認められ大事にされているという心のエネルギーの充足感の中で、お互いを理解し、信頼し合い、安心して仲間とかかわることを積み重ねていくことが伝え合い認め合う人間関係づくりに必要であると考えた。これらのことから、本研究では、育てる教育相談を「社会生活に必要な人間関係形成能力を養うための豊かな心の発達を支えるもの」と捉え、育てる教育相談の視点と育てたい児童生徒の姿を、表1のように作成した。

視 点	育てたい児童生徒の姿
①積極的傾聴	相手の考え、意見、気持ちを受けとめて聴く
②自己理解	自分のよさや課題がわかる
③自己表現	自分の考えや意見を伝える
④自己肯定感	自分らしく、安心して関わり合う
⑤他者理解	相手の考え、意見、気持ちを理解する
⑥他者受容	相手のよさを見つけ、思いやる
⑦相互理解	お互いに認め合い、尊重し、協力する
⑧帰属意識	学級の一員として所属感を持ち、同じ目標に向かって努力する

⁷ 『月刊学校教育相談』 ほんの森出版 2011年4月 p.56-57

⁸ 『生徒指導提要』 文部科学省 2010年3月 p.107

(3) 学級づくりと授業づくり

諸富祥彦⁹は、学級づくりの二大原則は、「ルール」と「ふれあい」であると述べている。

①基本的なルールを守らせ、学級に秩序を与えることで、どんな子どもでも安心して話ができる状況をつくる。

②お互いがお互いを認め合えるポジティブで温かい関係を構築していく。

この二つが学級に安心感をもたらす、としている。また、赤坂真二¹⁰は、『教師はよい授業をするために教材研究をするが、失敗してしまうことがある。それは、授業の失敗というよりも学級づくり、人間関係の失敗なのである。子どもが「この先生と勉強しよう」「この学級の仲間と共に学ぼう」という気がなければ、学習は成り立たないのである。つまり、教科指導の中で、課題達成の過程で、他者と効果的にコミュニケーションをとったり、喜びを共有したり、援助したりされたりする体験を積む。といった他者との肯定的なかかわりが、結果として良好な人間関係を育んでいく。良好なかかわりの蓄積は、やがて子どもの人格の発達を形成していくに違いない』と述べている。これらのことから、子どもたちにとって、魅力ある学級づくりと、魅力ある授業づくりを両輪の関係として取り組んでいくことが大切であると考える。

2 学級力の育成

人間関係形成能力は、授業をはじめ、日常の様々な場面の中で、人間関係づくりがあって育まれていくと考える。子どもと教師が一緒によりよい学級をつくっていかうとする活動を通して、伝え合い、認め合う人間関係形成能力や、学習に協力して取り組む力が育まれていくと考えた。そこで、一つのツールとして学級力の育成を行い、レーダーチャートを活用することにした。

田中博之¹¹は、望ましい学級が備えている5つの力を「学級力」としている。学級力とは「学び合う仲間である学級をよりよくするために、子どもたちが共に目標にチャレンジし、豊かな対話を創造して、規律を守り、安心できる環境のもとで協調的な関係を創りだそうとする力」と述べている。

(1) 望ましい学級が備えている5つの力

田中¹¹は、5つの力には、小学校 高学年それぞれ3つの具体的な姿があるとしている。

①「目標をやりとげる力」
【目標】【改善】【役割】・・・いつもみんなで達成したい目標があり、係活動等に責任をもって取り組み、生き生きといろいろなことにチャレンジしている学級。

②「話をつなげる力」【聞く

姿勢】【つながり】【積極性】・・・授業中に友だちの意見につなげて発言したり、友だちの意見を尊重

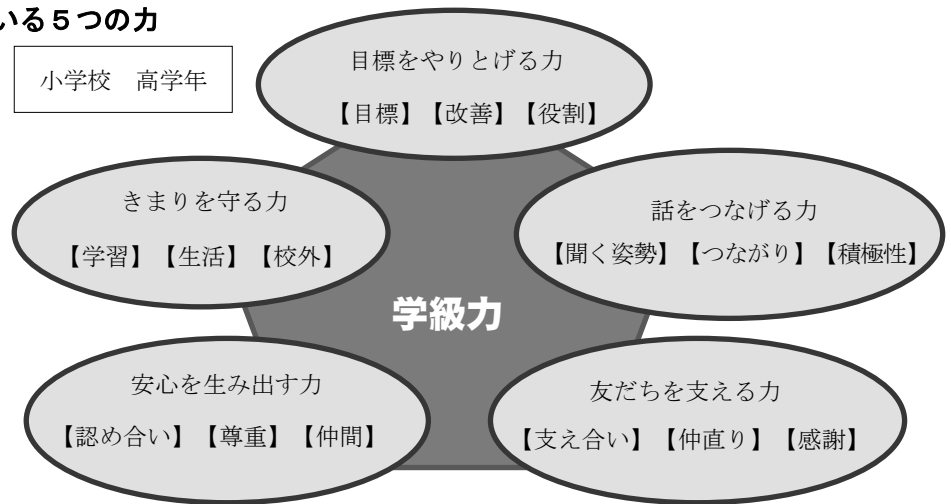


図2 学級力の5つの力

⁹ 諸富祥彦他『カウンセリングテクニックで高める「教師力」1 学級づくりと授業に生かすカウンセリング』ぎょうせい 2011年 p.4

¹⁰ 赤坂真二他『カウンセリングテクニックで高める「教師力」1 学級づくりと授業に生かすカウンセリング』ぎょうせい 2011年 p.13

¹¹ 田中博之『学級力が育つワークショップ学習のすすめ』金子書房 2010年 p.10-11

してよりよいアイデアや新しい考えを生み出したりして、コミュニケーションを豊かに創造できる学級。

③「友だちを支える力」【支え合い】【仲直り】・【感謝】・・・勉強やスポーツでよく教え合い、係活動等で助け合い、ありがとうやごめんなさいが素直に言える学級。

④「安心を生み出す力」【認め合い】【尊重】【仲間】・・・友だちの心や体を傷つけたりせず、友だちのよさを認め合い大切にして、男女仲良く、誰とでも仲間になって遊んだり学んだりできる学級。

⑤「きまりを守る力」【学習】【生活】【校外】・・・学校の内外で学習や生活のルールを守るとともに、それらを話し合いによって作りだしていくことができる規範意識の高い学級。

学級力の育成とは、この学級の5つの力を、アンケートを実施することにより子どもが診断し、レーダーチャートで現れた学級の力を子どもたちがリサーチし、教師と子どもが一緒によりよい学級づくりに取り組んでいこうというものである。

(2) 学級力育成の流れ

学級力を高めていくための流れとしては、R-PDCAサイクルで行っていく(図3)¹²。はじめに、学級が備えている5つの力のアンケートを実施する。

①Rは「Research」学級力アンケートの結果を示したレーダーチャートを基に、学級の現状を把握し、分析する。②Pは「Plan」目標の設定と活動計画を立てる。今後の日常生活で学級としてどのように活動していくか、そのために何をしたらよいかを考える。③Dは「Do」実際に実行する。およそ2週間活動する。④Cは「Check」実行してみて活動を振り返り、評価・改善する。⑤Aは「Action」評価・改善し、修正した新しい活動をおよそ2週間行う。こうして1か月に1回、学級力のアンケートを実施していく。

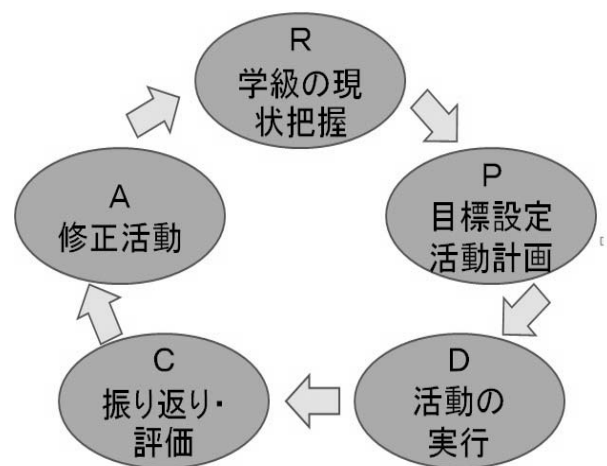


図3 新潟大学附属小学校 R-PDCAサイクル

子どもたちが話し合い活動によって、自分たちの学級の力を診断し、見出した課題となる力を高めるための取組みを計画し、それを実行していく。その成果を評価し、さらに改善していく。こうした活動を通して、自分たちの学級を自分たちの手で高めていこうとする意識を育み、子どもが学級づくりに自主的に参画していくことができるようにした。

3 協同的な学びを基盤とした授業

教育相談的なかかわりを大事にしながら授業を進めることで、子ども同士が安心して学び合えることについては植村裕之他¹³の研究によって明らかにされている。佐藤学¹⁴は、一人残らず子どもの学びの権利を実現するためには、協同的な学びによって子ども同士が学び合うより他に方法はないと述べている。協同的な学びの授業では、誰とでもかかわることができ、自分の考えを伝える、友だちの意見を聴く、相互の考えを交流させ深める、わからないときには、わからないと言える等の、表1の育てる教育相談の視点の姿を育てていく必要があると考えた。ともに課題を解決していく協同的な学びの授業を通して、育てる教育相談の視点の育てたい姿に迫ることにした。

¹² 新潟大学教育学部附属新潟小学校 『学級力を鍛え授業で発揮させる』 2012年 p.28-29

¹³ 植村裕之他 川崎市総合教育センター研究紀要第23号 2009年 p.157

¹⁴ 佐藤学 『学校を改革する 学びの共同体の構想と実現』 2012年 p.25

4 研究構想図

人間関係形成能力は、一長一短で養われるものではないと考える。学級力を高めていく活動と、協同的な学びの授業を一緒に継続して取り組んでいくことにより、育てる教育相談の視点の育てたい姿が生まれ、伝え合い、認め合う人間関係形成能力が養われると考え、研究構想図（図4）を作成した。

5 研究の手順

(1) 調査対象学級のアセスメント

①調査対象

川崎市立小学校6年生 1学級（38名）

②学級担任の聞き取りから（年度初め）

- ・状況を考えずに話し出し、私語が多い
- ・発言する子が少なく、全体的に受け身
- ・グループの活動になると人任せで、気持ちを伝えることが苦手な子が多い
- ・全体的に自己肯定感が低い
- ・自分で考えて行動する子が少なく、指示待ちの子が多い
- ・男女でグルーピングすることに抵抗がある

③かわさき効果測定から（4月実施）

結果を集計した図5を見て、研究員によるアセスメントを行った。

- ・A群に属する子が多く、人間関係をつくるためのスキルをもっている子どもが多い
- ・D群に属する子どもには、良好な人間関係づくりの支援が必要である
- ・欄外（D）の外にいる一人の子は特別な支援が必要と思われる

① 学級集団の凝集性を高めていくためにみんなで決めたことを、みんなで協力して実現させる。

② 話す、聞く立場でのルールを確認し、相互に意見交流が行われる学習形態を活用する。

③ 人間関係づくりを授業や日常生活の中で行っていく必要があると見立てた。Dの欄外に属する子に対しては、「だめなことはだめ」「特別扱いはしない」ことを前提として、個性を理解し具体的な指示をすることや話をじっくりと聞き、できたことを褒め認めていくことを意識してかかわるようにした。

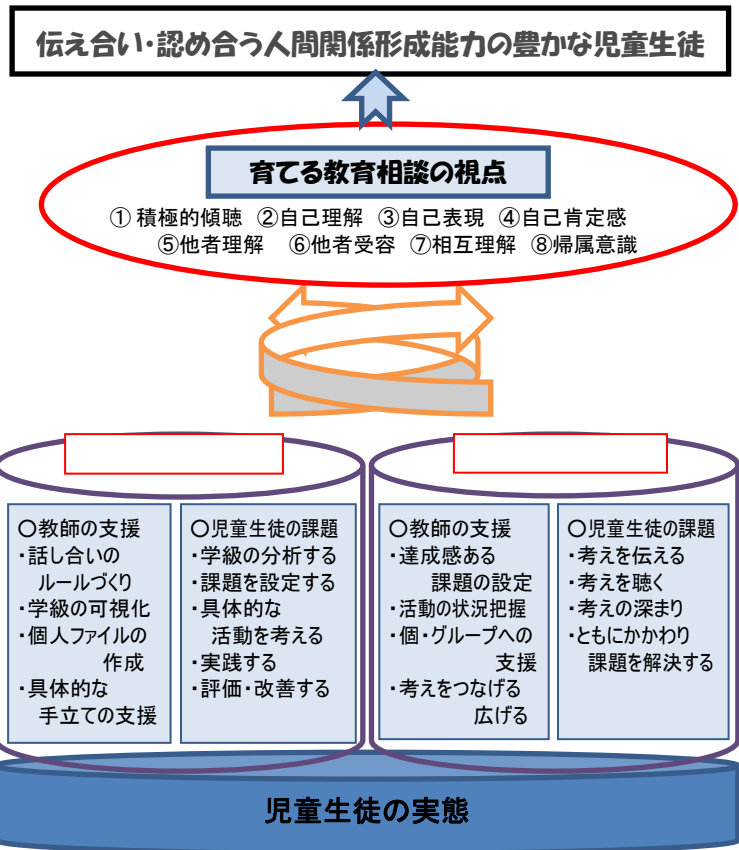


図4 研究構想図

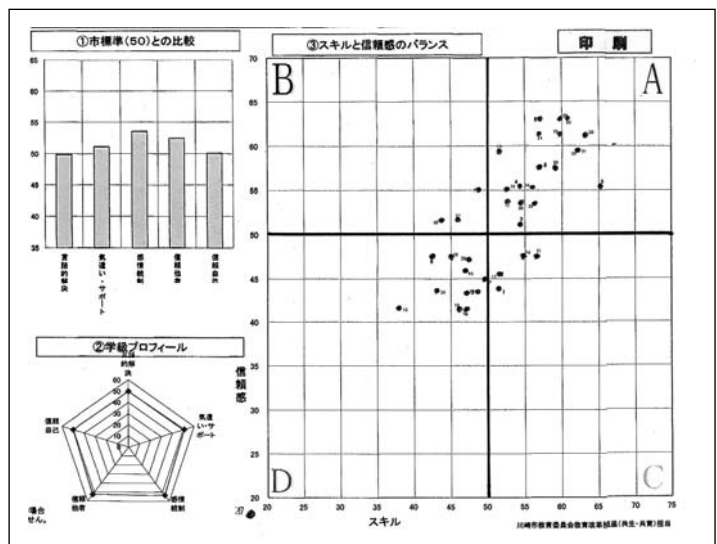


図5 かわさき効果測定（4月実施）

④予備授業における話し合い活動での学級の分析（6月1日）

学級がスタートしてから約2か月が過ぎた。ここで、改めて学級の状況を把握して、「どんなクラスにしていきたいか」を話し合った。

本時の目標：前回の話し合いで出した「どんなクラスにしていきたいか」の漢字一文字のキーワード「結」「絆」「歩」「助」「輝」「友」「心」「笑」「明」「支」「優」を具体化しよう。

○話し合い活動を見ての研究員によるアセスメント

- ・全体的に「どんなクラスにしていきたいか」という視点で積極的に意見が出されていた。
- ・グループで話し合っているときの声が大きく、周囲への配慮に欠ける場面が見られた。
- ・うまく具体化できないグループがいくつかあり、教師が支援していた。
- ・教師の説明はほとんどの児童が聞いているが、友だちが発言しているときに話が聞けない状況があり、教師からしっかり話を聞くような働きかけの注意が数回あった。

(2) 研究の経過

月 日	研究の経過 【 】は子どもが立てた目標	日常的な活動	授 業
6月 1日	話し合い活動（学級アセスメント）		協同的な学び
6月 8日	第1回学級力アンケートの実施		↓
6月15日	話し合い活動 学級のリサーチ・目標設定→【仲間】	アドジャン サイコロトークング	算数： 「比例と反比例」
6月21日	検証授業①算数「比例と反比例」	↓	↓
6月29日	話し合い活動 活動の振り返り・評価→【仲間】	アドジャン サイコロトークング 探偵ゲーム	
7月13日	話し合い活動 目標の設定→【仲間】+【認め合い】	↓	
7月13日	第2回学級力アンケートの実施		
8月31日	話し合い活動 学級のリサーチ・目標設定→【支え合い】	↓	
9月13日	話し合い活動 活動の振り返り・評価→【支え合い】	地区別大縄の練習	
10月 5日	話し合い活動 振り返り・評価→【支え合い】+【積極性】	↓	
10月17日	第3回学級力アンケートの実施		
10月19日	話し合い活動 学級のリサーチ・目標設定→【学習】	↓	算数：「比」
10月23日	検証授業②算数：「比」	朝の会・帰りの会 で確認と振り返り	↓
11月 2日	話し合い活動 振り返り・評価→【学習】+【校外】	↓	
11月16日	話し合い活動	アサーショントレ ーニング	
11月20日	振り返り・評価→【学習（聞く姿勢）】+【尊重】	↓	
11月27日	第4回学級力アンケートの実施 話し合い活動 学級のリサーチ・目標設定→【尊重】+【生活】	グループワークト レーニング	

6 研究の実践

(1) 学級力の育成

① アンケートの実施（6月8日）

先に述べたように、望ましい学級が備えている5つの力、各3項目のアンケートを実施した。

学級力アンケート 高学年用

第 回（ 月）

◎このアンケートは、私たちの学級をよりよくするためにみんなが意見を出し合うものです。それぞれの項目の4～1の数字のあてはまる場所に、一つずつ○をつけましょう。

4：とてもあてはまる 3：少しあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：まったくあてはまらない

目標をやりとげる力

- | | | |
|------|------------------------------------|---------|
| ① 目標 | みんなで決めた目標やめあてに力を合わせてとりくんでいる学級です | 4-3-2-1 |
| ② 改善 | 自分たちの学習や生活をよくするための話し合いや活動をしている学級です | 4-3-2-1 |
| ③ 役割 | 係や当番の活動に責任を持ってとりくむ学級です | 4-3-2-1 |

話をつなげる力

- | | | |
|--------|------------------------------------|---------|
| ④ 聞く姿勢 | 発言している人の話を最後までしっかりと聞いている学級です | 4-3-2-1 |
| ⑤ つながり | 友だちの話に賛成・反対・つけたしとつなげるように発言している学級です | 4-3-2-1 |
| ⑥ 積極性 | 話し合いの時、考えや意見を進んで出し合う学級です | 4-3-2-1 |

友だちを支える力

- | | | |
|--------|------------------------------------|---------|
| ⑦ 支え合い | 勉強・運動・そうじ・給食などで、教え合いや助け合いをしている学級です | 4-3-2-1 |
| ⑧ 仲直り | すなおに「ごめんね」と言って、仲直りができる学級です | 4-3-2-1 |
| ⑨ 感謝 | 「ありがとう」を伝え合っている学級です | 4-3-2-1 |

安心を生む力

- | | | |
|--------|---------------------------------|---------|
| ⑩ 認め合い | 友だちの良いところや頑張っているところを伝え合っている学級です | 4-3-2-1 |
| ⑪ 尊重 | 友だちの心を傷つけることを言ったり、からかったりしない学級です | 4-3-2-1 |
| ⑫ 仲間 | だれとでも遊んだり、グループになったりすることができる学級です | 4-3-2-1 |

きまりを守る力

- | | | |
|------|-------------------------------------|---------|
| ⑬ 学習 | 授業中にむだなおしゃべりをしない学級です | 4-3-2-1 |
| ⑭ 生活 | ろうかを走らない、あいさつをするなど、学校のきまりを守っている学級です | 4-3-2-1 |
| ⑮ 校外 | 校外では人のめいわくにならないように考えて行動できる学級です | 4-3-2-1 |

学級力アンケート：田中博之より資料提供

No. 1

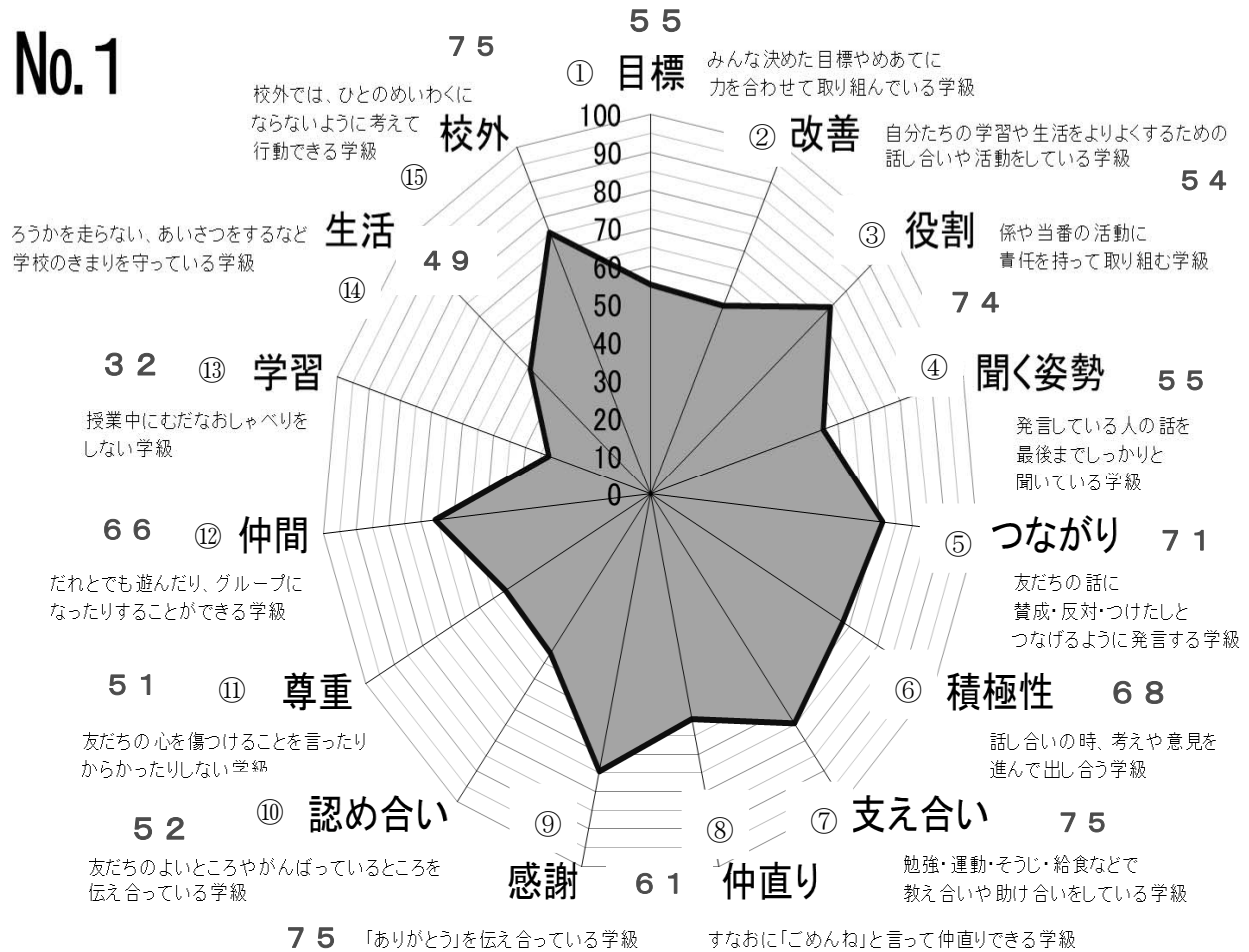


図6-1 第1回学級力レーダーチャート

アンケート結果のレーダーチャート（図6-1）を見ながら分析をしていく。学級力のアンケートは4件法なので、学級の子もたちが全員1をつけた時には得点が0点になる。全員が2をつけた時は33点、以降同じように、全員が3をつけると66点、4をつけると100点となる。実際には全員が同じ点数をつけることはほとんどないので、得点はその中間値を示すことになる。

このレーダーチャートを教室に掲示することにより、子どもたちに常に可視化し、日常生活の中で意識化を図ることができる。また、個人ファイルをつくり、話し合いの時に活用していくようにした。

この学級では、クラス会議を、レインボーパレット会議と名付け、話し合いをしている。その意味は、一人一人がいろいろな個性（色）を発揮して、それが混ざり合って学級をきれいに鮮やかに仕上げているということで、子どもたちがこだわってつけた名前である。このレインボーパレット会議でリサーチした結果、一番少ない「学習」になると思われたが、「安心を生む力」の【仲間】が、目標となった。その理由として「他のめあてを達成するためにもまずは仲間づくりが大切だから」「仲間づくりをしてから学習にしたほうが、注意しやすいから」等、色々な意見が出された。

③目標を達成させるための計画（P：プラン）

そして、学級で話し合いを行い、仲間づくりを達成するために「もっとみんなに自分のこと、長所や短所を知ってもらおう、性格・個性がわかるエクササイズをやろう、みんなで協力できるエクササイズをしよう」ということになった。「グループの人と仲良くなる」や「中休みや放課後に遊んだことのない人たちと遊ぶ」など一人一人の目標を立てた。

④計画の実行（D：ドゥ）

日常的な活動として、朝の会で「アドジャン」「サイコロトークング」を行った。また、「休み時間等に遊んだことのない人と遊ぶ」ことを意識し、およそ2週間活動した。

⑤話し合い活動（レインボーパレット会議） 活動の振り返りと評価（C：チェック） 6月29日

2週間活動した後に、一人一人が目標を達成できたか自己評価し発表していった。達成できたが15名、少しできた17名、できなかった6名であった。達成できなかった理由を聞いて、解決策を考えようということになった。

理由 ・やっぱり仲のいい友だちと遊ぶことが多かった。 ・遊びに誘うのは、はずかしい。
・休み時間に一人でいたいこともある。

解決策 ・誘うことが平気な人と苦手な人がいるので、苦手ではない人が誘う。
・一人でいたいこともあるから、誘うときに相手に気持ちを確かめる。
・中休み、昼休みのどちらかでも、今まで遊んだことのない人と遊ぶようにする。

「達成できた人もいるけど、半分いっていないからもう少し続けよう」ということになった。次の目標も【仲間】とし、「誰とでも遊んだり、グループになったりすることができる学級」と具体化して続けることになった。具体的な活動としては、もっとみんなに自分のことを知ってもらおうということで「アドジャン」「サイコロトークング」を続ける。「他のエクササイズも行う」「遊んだことのない人たちと遊ぶ」ことを再確認した。

⑥修正・活動（A：アクション）

【仲間】を目標に活動を2週間続けた。日常的な活動として、新たに「探偵ゲーム」を取り入れた。

⑦話し合い活動（レインボーパレット会議） 学級の分析（R：リサーチ） 7月13日

【仲間】 誰とでも遊んだり、グループになったりすることができる学級

最初に、マイクを回していき、理由と一緒に「達成できた：◎」「少しできた：○」「達成できなかった：△」で自己評価し、順番に全員が発表した。達成できた、まあまあ達成できたが34名、達成できなかったが4名という結果だった。達成できなかった4名の内、2名は「委員会活動が忙しくて遊ぶ時間がなかった」と話していた。この結果を踏まえて来週から目標をどうするかグループで話し合った。

話し合いの時には、会議用個人ファイルを使用し、レーダーチャートの間近で見えて、個人の目標や、振り返りを記入できるようにした。【仲間】を「全員が達成させたい」ということで、来週からは【仲間】プラス【認め合い】の二つを目標に設定した。

【認め合い】では、「友だちの個性を認める」「共感したりほめたりする」「友だちががんばった時に認める」「認め合って友だちを多くしたい」など一人一人具体的な目標を立て、活動することになった。



図7 会議用個人ファイル

ア 結果

合計4回のアンケートを実施した。内側の点線が2回目、細い二重線が3回目、外側が4回目である。2回目のレーダーチャートを見ての目標は【支え合い】となった。3回目は【学習】となり、途中から修学旅行前ということもあり、【学習】と【校外】になった。修学旅行後は【学習（聞く姿勢）】と【尊重】となった。4回目は【尊重】と【生活】となった。1回目から4回目の数値の変容が表3である。子どもたちが立てた目標は、少しずつではあるが、順調に数値を上げていった。また、相乗効果で他の項目の数値も変容していくことがわかった。学級力の育成を通して次のような学級や個人の変容の感想を得られた。

《学級力育成を通しての感想》

- ・レインボーパレット会議で決めた目標を自分で具体的にしていこうとしました。初めあまり話さなかった人とも話せるようになり、前よりとても明るく元気なクラスになったと思います。
- ・初めて同じクラスになった人と仲良くなれるといいなと思っていたら、他の人とも仲良くなりました。クラス全体もとても変わったと思いました。特に学活ではクラスが一つになって、初めて話し合いをうまくできたと思いました。
- ・初めのころより気持ちがすぐに顔に表れなくなりました。すねたり怒ったりする友だちも、それもその人のよさと思うと、いつもニコニコしてられるようになりました。
- ・みんなと仲良く、男子とも仲良くなりました。5年生の時はすぐに怒っていたけど、前よりすごくよくなりました。発言は、今までは誰かが言ってくれると思っていたけど、少しは自分も発言しようと思えるようになりました。

- ・初めに比べて私は明るくなれたと思います。最初はクラスで一番影がうすく、ずーっと暗いオーラが漂っていたのですが、今はそのオーラが少しずつ消えていっている感じがしたので明るくなれたのだと思います。
- ・最初より団結というか「和」がクラスに出てきたと思う。さらに協力してこれからもやっていきたい。

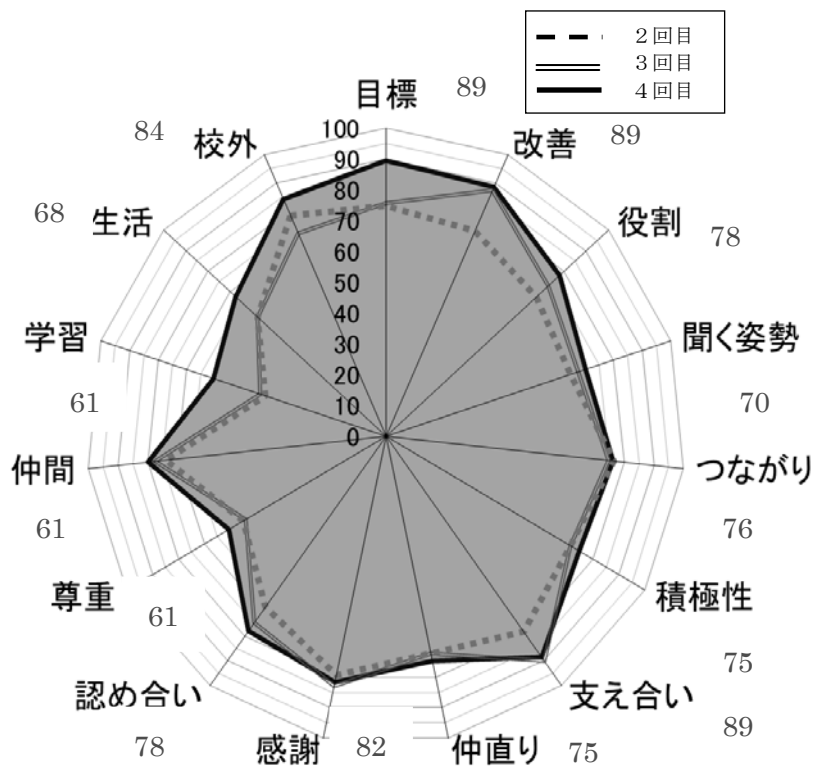


図6-2 レーダーチャートの変容（2・3・4回目）

表3 学級力数値の変容

領域	項目	6月	7月	10月	11月
目標をやりとげる力	目標	55	↑ 75	↑ 76	↑ 89
	改善	54	↑ 73	↑ 87	↑ 89
	役割	74	↓ 68	↑ 73	↑ 78
話をつなげる力	聞く姿勢	55	↑ 65	↑ 68	↑ 70
	つながり	71	↑ 77	↑ 75	↑ 76
	積極性	68	↑ 71	↔ 71	↑ 75
友だちを支える力	支え合い	75	↑ 78	↑ 90	↔ 89
	仲直り	61	↑ 72	↔ 72	↑ 75
	感謝	75	↑ 79	↑ 83	↔ 82
安心を生む力	認め合い	52	↑ 68	↑ 75	↑ 78
	尊重	51	↑ 55	↔ 54	↑ 61
	仲間	66	↑ 74	↑ 77	↑ 80
きまりを守る力	学習	32	↑ 42	↑ 44	↑ 61
	生活	49	↑ 58	↔ 58	↑ 68
	校外	75	↑ 78	↓ 72	↑ 84

イ 考察

子どもたちは、自分たちが立てた目標を達成させようと努力するが、なかなかうまくいかないこともある。その時に教師の適切な支援が必要になると考える。具体的には次の通りである。

【教師の具体的な支援例】

R:リサーチ	目 標	目標達成の具体的活動	問題点や課題	教師の支援
1回	仲間 ↓ 仲間と 認め合い	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことを知ってもらうために、個性や性格がわかるエクササイズをしたい。 遊んだことのない人も遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> もっとみんなに自分のことを知ってもらいたい。 やっぱり仲のいい人と遊ぶことが多かった。 誘うのが恥ずかしい。 	エクササイズ <ul style="list-style-type: none"> アドジャン サイコロトークング 探偵ゲーム
2回	支え合い ↓ 支え合いと 積極性	<ul style="list-style-type: none"> 得意なことは助けてあげて不得意なことは助けてもらう。 地区別の大縄の練習で声を掛け合い励まし合う。 積極的に発言したり質問する 	<ul style="list-style-type: none"> 分からないことはわからないと言う。 二人の児童が「得意なことはない」と言う。 グループでは「なんで?」「わからない」と言えるけど全体では言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 支え合いの意味を考えさせる 心や気持ちの支え合いに着目 <p>「〇〇さんはいつも穏やかでキレたりしないよね。〇〇さんは、いるだけで周りが楽しくなるよね」</p>
3回	学習 ↓ 学習と生活 ↓ 学習と尊重	<ul style="list-style-type: none"> 授業中無駄話をしない。 グループで話すときは小さい声で話す。 話をしている人がいたら注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> なかなか達成されない。 専科の授業で無駄話がある。 注意をしたら嫌なことを言われた。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会で目標の確認 帰りの会で振り返り アサーション トレーニング <p>「言い方を考えよう」</p>
4回	尊重と生活	<ul style="list-style-type: none"> 傷つく言葉は言わない。 アサーティブな言い方をする。 学校のルールを守って、もっとあいさつを交わす。 	<ul style="list-style-type: none"> まだ人を傷つける言葉がある。 あいさつをしても返事が返ってこない時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク トレーニング <p>「クラスにとって大切な人は」</p>

学級全体の共通の目標を設定し、その目標を達成させるために個人で具体的な目標を立てて努力していく。それが育てる教育相談の視点の相互理解、帰属意識を高めることになり、子ども同士の関係がよくなると考える。しかし、子どもが具体的な活動を考えることが難しい場合、教師が具体的な活動を支援していく必要がある。例えば3回目に「アサーショントレーニング」を行った後、子どもたちは「アサーティブな言い方」を意識するようになり、相手を傷つけるような言動が減った。また教師は、学級力の育成の基盤となる話し合い活動の成立のために、安心して発言できる雰囲気づくり、相手の考え、意見、気持ちを受け止めて聞く姿勢など、話し合いのルールやスキルを身につけさせる必要があると考える。そのスキルも話し合い活動を継続して行わなければ身につかないものであると思う。

(2) 協同的な学びの授業の実践

6月、10月に行った授業実践において、次のような児童の変容が見られた。

<4月の児童の様子> (担任からの聞き取り)

- ・発言する児童が少なく、全体的に受け身である。
- ・状況を考えずに話し出し、私語が多い。
- ・グループの活動になると人任せで、気持ちを伝えることが苦手な児童が多い。
- ・男女でグルーピングすることに抵抗がある児童が多い。

実践①6月21日 単元 「比例と反比例」

本時の目標「表をもとに、伴っている2つの数量の関係を考察し、比例の意味を理解する」

本時の課題「直方体の形をした水槽に水を入れました。1分後の水の深さを調べたら3cm、2分後には6cm、3分後には9cmになりました。水を入れる時間と水の深さの関係について調べましょう」

児童の様子と、高まったと思われる育てる教育相談の視点(☆)

- ①どのグループも活発に意見交流しているが、声が大きく、周囲への配慮に欠ける
- ①グループ内で教え合う姿が、よく見られる(ペンを使って説明している姿が見られる) **☆相互理解**
- ③友だちが「こうするともっとわかりやすくなると思う」等の発言が自然に出て話がつながる **☆他者理解**
- ④ほとんどの児童が説明を聞いているが、やや集中力に欠ける

実践②10月23日 単元 「比」

本時の目標「比の意味の表し方、比の相互関係、比の値について理解する」

本時の課題「みのるさんは、ミルクカップ2カップとコーヒー3カップでミルクコーヒーをつくりました。しんやさんはミルクを4カップにして同じ味のミルクコーヒーをつくろうと考えました。コーヒーは何カップ必要でしょうか」

児童の様子と、高まったと思われる育てる教育相談の視点(☆)

- ①どのグループも活発に意見交流が行われ、声の大きさを配慮している
☆自己表現、他者理解
- ②誰とグループになっても自然にかかわり合うことができる
☆自己肯定感、他者受容
- ③グループ内で教え合う姿や、違う考え方を説明し合う姿がよく見られる
☆相互理解
- ④よりわかりやすく説明しようとする工夫が見られる
☆自己表現、他者理解
- ⑤学級全体で、「わからない」と言える雰囲気がある
☆自己肯定感、自己理解
- ⑥話をしている人に体、顔をしっかり向けて話を聞いている
☆積極的傾聴

教師の手立て・工夫

- ・常に机をコの字型に配置
- ・男女混合4～5人グループ
- ・適切な活動場面の切り替え
一人、ペア、グループ、学級
- ・わからないことへの
受容的、肯定的態度
- ・積極的傾聴への働きかけ
- ・わかった、うなづく、拍手
などの反応を促す
- ・褒める、認める
- ・子ども同士の考えを
つなげる、広げる

実践①の授業では、課題解決に向けて、小グループ、全体、グループ、個人という流れで授業が進んだ。小グループの場面では、課題解決に向けてお互いの意見交流が活発に行われていたが、やや声が大きく、他のグループへの配慮に欠ける部分も見られた。グループ内でわからない子どもに教える場面が見られ、全体的に協力して学習に取り組む姿勢ができていると感じた。あるグループでは、「わからないから教えて」と言って、グループの子どもがペンを立てて説明している姿も見られた。教師は、グループ、全体と、活動場面をタイミングよく切り替えていた

実践②の授業では、この授業では、理解できていない児童が多くいたが、グループでの活動の時には、わからない人にわかってもらおうと一生懸命説明したり、違う考え方を説明し合っていた。グループで意見交流をしているときの声も、他のグループに影響が出ないように配慮していた。また、全体に説明している内容に対して、「わからない」「どうしてそうなるの？」と学級全体で、わからないと言える温かい雰囲気の中で授業が進められた。ほとんどの児童が、説明している人に顔、体を向けて理解しようと一生懸命聴いている姿が見られた。

このように、対話型の学習では、子どもと教師、子ども同士の豊かな人間関係と、教師の手立てや工夫が大切であると考えます。

①結果

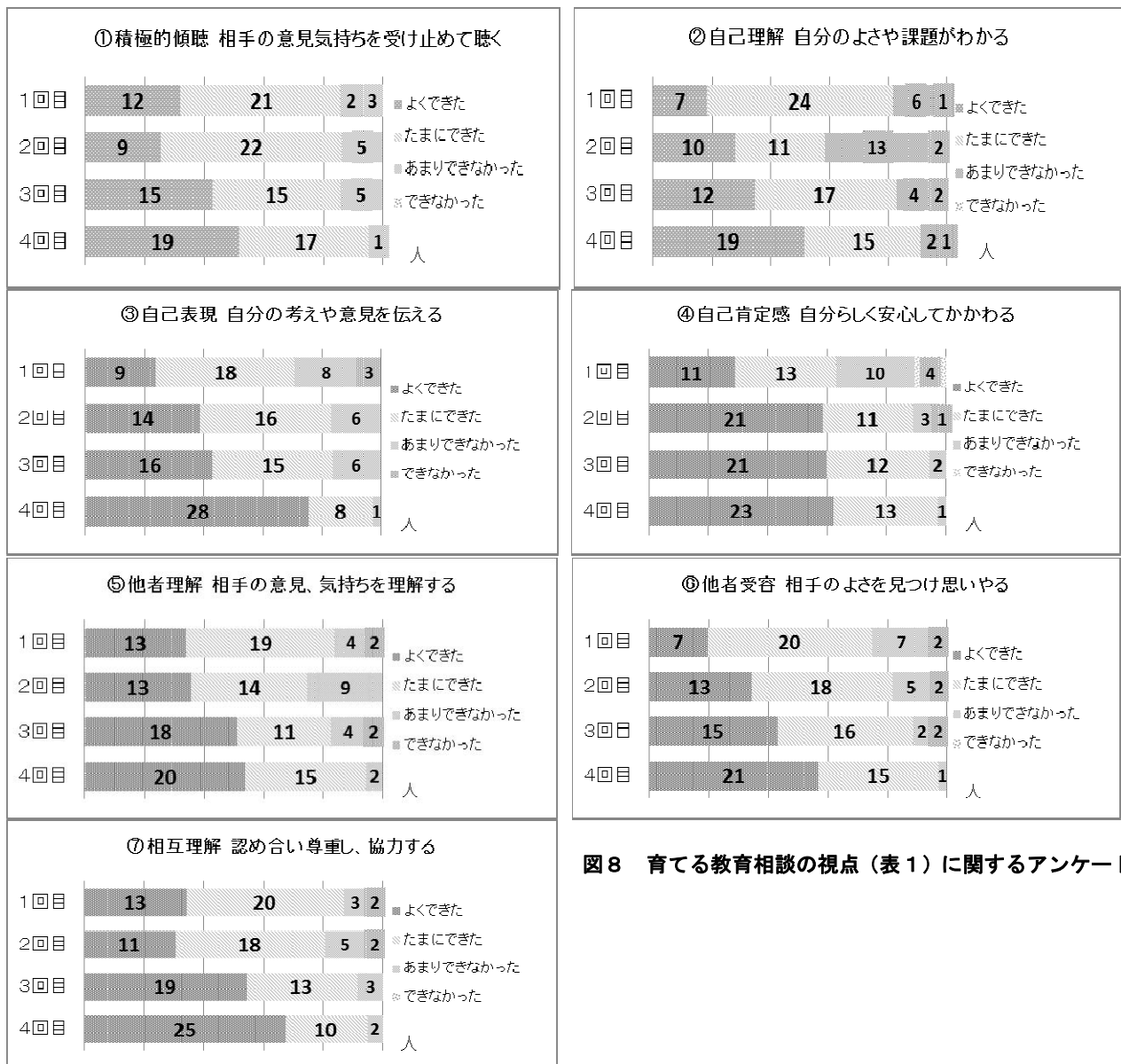


図8 育てる教育相談の視点(表1)に関するアンケート結果

授業後に、育てる教育相談の視点に関するアンケートを実施した。その結果が図8のグラフである。積極的傾聴の高まりにより、顔、体に向けて友だちの説明をしっかりと聴いている姿が多くみられるようになった。説明する人も、わかりやすく説明しようと努力する姿も見られた。また、自己表現、自己肯定感、他者受容、相互理解の高まりにより、誰とでも自分らしく安心してかかわることができ、考えや意見を伝えられるようになり、協力して学習に取り組む力が育まれてきたと感じる。

協同的な学びを通して次のような個人の変容の感想を得られた。

《協同的な学びを通しての感想》

- ・5年生の時、算数がとても嫌いでした。今はみんなで問題を解くのが楽しくなりました。少しだけ算数が好きになりました。これからもみんなで協力して問題を解いていきたいです。
- ・前まで算数が大嫌いだったけど、夏休み明けくらいから別に嫌いじゃなくなった。
- ・算数で班の人に教えて、わかってもらえたときすごくうれしかったから、頑張りました。
- ・苦手だった算数が得意になって、人に教えられるようになったことがうれしかったです。
- ・5年生までわからなくてもずっとだまっていたけれど、みんながわかるまで教えてくれたので、今まで好きではなかった算数がわかるようになり、好きになったのでよかったです。
- ・わからないところは、「わからない、どうしてそうなるの?」と言えるようになった。私も言われたらわかるときは優しく教えてあげようと思いました。
- ・わからない人にわかってもらえるとうれしいので、わかりやすく説明できるように頑張りました。
- ・席替えをして誰とグループになっても平気になりました。

② 考察

調査対象学級では、常にコの字型の机の配列で授業が行われている。グループは男女混合4～5人で編成されている。みんなで協力して問題を解決した時の喜びが達成感を味わわせ、学びの意欲を高めると考える。検証授業②では、学級全体で学び合う雰囲気があり、わかってもらおうと一生懸命説明している姿が見られた。これは、育てる教育相談の視点の高まりにより、安心してかかわることができ、自分の考えや意見を伝え、お互いを認め合うことができるようになったからであると考えられる。学級力の育成を通して、人間関係形成能力が育まれていくと、学習に協力して取り組む姿勢が高まり、教育的効果が得られると考えられる。

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究を通して見えてきたもの

(1) 学級力の育成を通して

学級力のアンケートを実施し、学級の状態をレーダーチャートで可視化し、2週間に1回学級についての話し合いを行っていく。学級に何か起こった時に開く話し合いではなく、常に学級をよくしていこうとする前向きな話し合いなので、建設的な意見が多く出される。学級力を育成しようとする過程のレインボーパレット会議や日常生活の活動を積み重ねることにより、相手の話を聴く姿勢や相手を思いやる発言が多くみられるようになった。また、同じ目標を達成しようとする自分の頑張ることを明確にして取り組むことによって、自分で考えて行動し、帰属意識が高まり、学級の一員としての自覚も出てきているように感じた。子どもたちは、学級力の高まりがレーダーチャートで表れるので、形が外側に丸くなっていくと喜びを感じ楽しみながら取り組んでいた。学級担任は、「休み時間や放課後、男女関係なく

仲よく遊んでいる」「学級力の言葉（仲間、支え合い、認め合い、尊重等）を意識し、人間関係が良好になった」「自然と助け合うようになった」と、学級の変容を感じている。

（２）協同的な学びの授業を通して

小グループでの対話型の学習形態を活用し、意見交流や友だちとかかわる授業を継続して行ってきた。このような授業では、教師のリーダーシップ、意図的、計画的な手立てや工夫が必要である。また、自分らしく安心して、友だちとかかわることができる人間関係も必要である。学級担任は、「席替えをして誰とグループになっても自然とかかわることができるようになった」「わからない人にわかりやすく説明しようと努力する姿が見られるようになった」「学級全体で学び合う意識が高まってきた」と感じている。子どもの感想を見ても、「人に教えてわかってもらえたときうれしかった」「みんながわかるまで教えてくれて算数が好きになった」等、友だちとかかわって学習することにより、喜びを感じている。先にも述べたように、豊かな人間関係形成能力が育まれることによって、学習に協力して取組む姿勢が高まってきたと言える。

（３）かわさき効果測定から

かわさき効果測定（図9）の変容を見ても、A群に属する子が増え、学級の凝集性が高まったことが伺われる。Dの欄外に属していた子も、まだ支援が必要であるが欄内に入ってきた。

また、市標準（50）との比較と変容（図10）でも、顕著な変化を示した。「言語的解決」の項目では、話し合い活動や、対話型の学習形態を継続して行ってきたことにより、自分の気持ちや考えを話すことができるようになったことを表している。

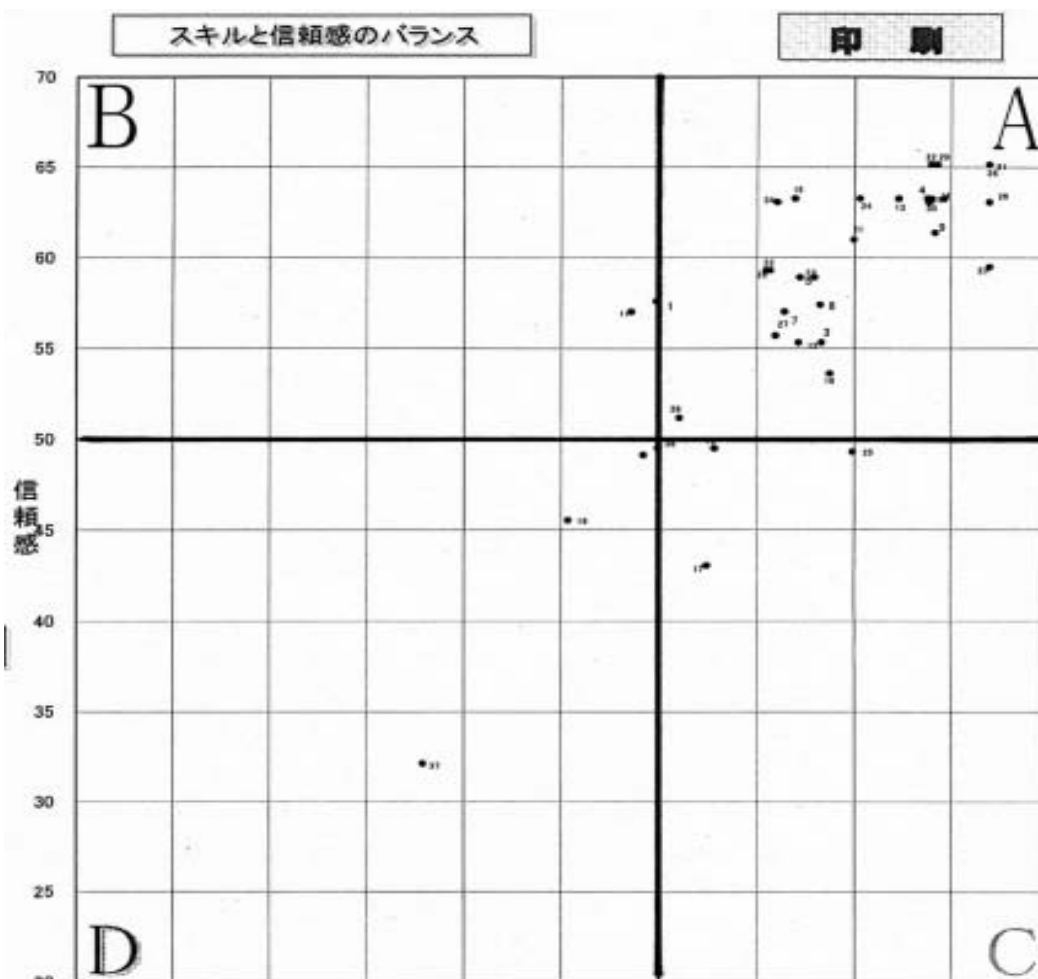


図9-1 かわさき効果測定（12月）

「気遣い・サポート」の項目では、友だちを思いやる優しい心が育まれている表れである。学級力で言い換えれば、【友だちを支える力】【安心を生む力】の高まりと関連していると考えられる。「信頼自己」の項目では、規範意識や、学級の一員としての所属感、自己肯定感の高まりを表している。

これらのことから、豊かな人間関係形成能力を育てていくには、学級づくりと授業づくりを両輪として進めていくことが大切である。

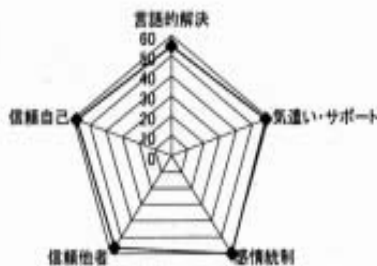
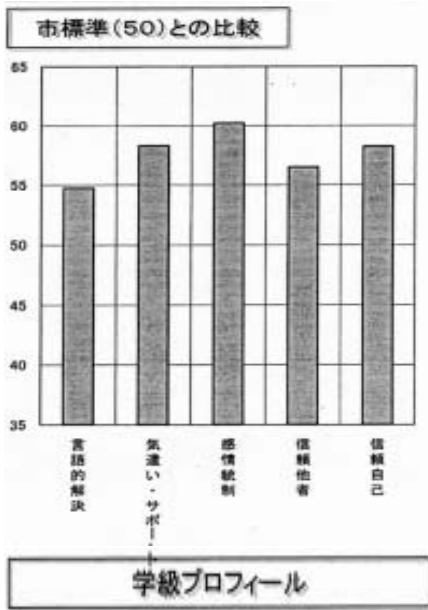


図9-2 かわさき効果測定 (12月)

2 今後の課題

- ・学級力の育成では、2週間に1回継続して学級についての話し合いを行っていくための時間の確保が難しい。学校や学年で取り組むことができれば、共通に時間をつくることができる。また、レーダーチャートを適切に活かし、お互いの学級についてのアドバイスや意見交換を行うことにより、教員同士がつながり、お互いの学級づくりにかかわり合うことができると思われる。
- ・学級力の育成を進めていくと次第に子どもの自己評価は厳しくなっていき、少しでも納得がいかないと次の目標になかなか進まない傾向にあった。よくできたことを中心に振り返らせていく必要がある。
- ・子どもたちの具体的な活動を適切に支援できるような教師のスキルを高める必要がある。
- ・協同的な学びの授業では、子どもたちがより達成感を感じられる課題設定の工夫や、個に対する支援の在り方など、より効果的な授業展開を工夫して進めていく必要があると感じた。

最後に、研究を進めるに当たり、ご支援、ご助言をくださいました講師の先生方、また、校長先生並びに職員の皆様に、心より感謝を申し上げます。

かわさき効果測定 市標準(50)との比較と変容

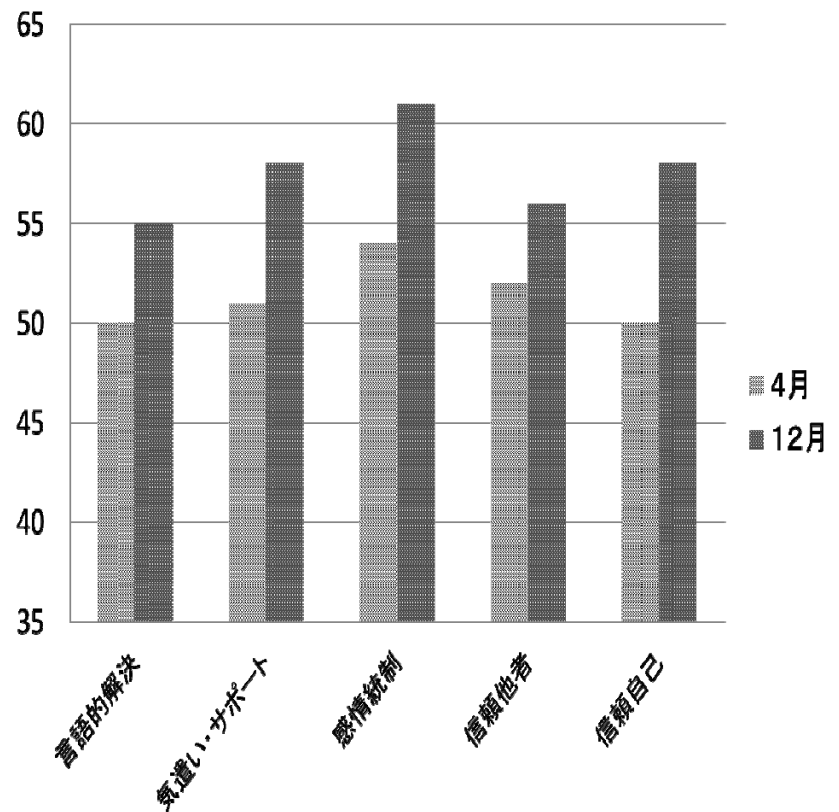


図10 市標準(50)との比較と変容

【参考文献】

- 國分康孝『学校カウンセリングの基本問題』 誠信書房 2000年
- 石隈利紀『学校心理学が変える新しい生徒指導』 学事出版 2005年
- 田中博之他『「読解力」を育てる総合教育力の向上に向けて』ベネッセ教育研究開発センター 2007年
- 田中博之『学級力が育つワークショップ学習の進め』 金子書房 2010年
- 新潟大学教育学部附属新潟小学校『学級力で変わる子どもと授業』 明治図書 2010年
- 赤坂真二『先生のためのアドラー心理学』 ほんの森出版 2010年
- 赤坂真二『教室に安心感をつくる』 ほんの森出版 2011年
- 『授業力&学級統率力』 明治図書 2011年8月号
- 諸富祥彦 『カウンセリングテクニックで高める「教師力」1
学級づくりと授業に生かすカウンセリング』 ぎょうせい 2011年
- 有村久春『カウンセリング感覚のある学級経営ハンドブック』 金子書房 2011年
- 赤坂真二『教室に安心感をつくる勇気づけの学級づくり』 ほんの森出版 2011年
- 新潟大学教育学部附属新潟小学校『学級力を鍛え授業で発揮させる』 明治図書 2012年
- 河村茂雄『学級集団づくりのゼロ階段』 図書文化 2012年
- 水戸部修治「協同的な学び合い」をつくる言語活動
ー教科の特性をふまえた授業づくりー 明治図書 2012年
- 佐藤 学 『学校を改革する 学びの共同体の構想と実践』 岩波ブックレット 2012年

【指導助言者】

- 東海大学文学部心理・社会学科教授 芳川 玲子
- 早稲田大学教職大学院教授 田中 博之
- 川崎市総合教育センター指導主事 新井紀代美